



〒780-8014 高知市塩屋崎町1丁目1-10 TEL(088)833-4394 FAX(088)833-7373

<http://www.tosaobog.com>

開校記念日に新校舎募金寄付者銘板除幕式



左から池上理事長、岡内同窓会会長、山本校長

募金寄付者銘板

お披露目



新校舎建築募金委員会
委員長 岡内 紀雄
(34回生)

二〇〇七年三月から今年(二〇一二年)三月まで五年間に亘り実施した「新校舎建築募金」は、総額四億一千二百万円余と、目標の四億円を上回る素晴らしい成果をあげることができました。これもひとえに同窓会・振興会をはじめ多くのみなさんのご支援の賜物と心から感謝申し上げます。

この募金を始めるに当り、同窓生・一般・教職員は三万円以上、団体は五万円以上、法人は一〇万円以上ご寄付くださった方々への報恩感謝の表意として、銘板を作成することとしておりました。

この度、めでたく銘板が完成し、十一月一八日の開校記念日に合わせて、除幕披露式が執り行われました。銘板の設置場所は、母校一階コミュニケーションションホールです。母校にお越しの際は、是非ご覧ください。

2012 ホームカミングデー

日時／平成24年 8月18日(土) 12:00～

講演会

筆山ホール講演会 今が旬！師友の縁に生かされて

幸徳正夫 氏 (37回生)



石川 征 (37回生)

平成24年度同窓会「ホームカミングデー」では、私達と同期の幸徳正夫君が、「今が旬！師友の縁に生かされて」という演題で講演を行いました。

さて、話は50年前のことで時効ではあるが、との前置きで始まりました。

彼が高校3年生の時に、諸般の事情で勉学と生活面で大変落ち込んでいたところ、担任の石川其治先生に「シャンとせえ、シャンと」と愛情に充ちた「気合」を入れられたこと、また級友の黒川雄爾君が、勉学の遅れを取り戻すべく叱咤激励の「活」を入れて、協力やアドバイスをしてくれたこと、又、クラスは違うが大平博三君が、自分を犠牲にしてまで何かと高校生活を支えてくれたこと等、師友の協力のお陰で立ち直ることが出来た。

そして現在の自分がある原点は、土佐中高に入学して素晴らしい先生と友人に出会えたことに尽きる、という内容を熱き思いと心で語った1時間20分でした。



講演終了後に、恩師石川其治先生の愛娘の柿本佐紀子さんから花束贈呈があり、幸徳君も一瞬ビックリするやら喜ぶやらの態でした。

終りに、「ホームカミングデー」の実行委員の皆様、そして幸徳君とは同じ卓球部員だったこともあり、講師に推薦して下さった36回生の北岡顕史先輩に、37回生代表幹事として感謝を申し上げる次第であります。



柿本佐紀子氏

座談会

「復活のマウンド」 — 骨髓バンク8万人登録運動と共に —

依光聖一 氏(42回生)／坂本 隆 氏(47回生)／戸田浩司 氏(80回生)／黒岩泰子 氏(69回生)



正木宏明 (52回生)



座談会「復活のマウンド」は、土佐高が発信源となり全国に広がった「骨髓バンク8万人登録運動」に関わった人々たちから話を聞こうという企画です。話し手は県骨髓バンク推進協議会会長・依光聖一氏と土佐高教員・坂本隆氏、司会はNHK高知放送局の黒岩泰子さんでした。出演予定だった戸田浩司君が仕事で来られないというハプニングはありましたが、約40名の参加者は胸を打つ「命と絆のドラマ」に聞き入ったことでした。



『舞姫』冒頭の謎を読み解く

土佐中・高等学校教諭 広井 護 先生

矢野公士 (62回生)

『石炭をば早(は)や積み果てつ。中等室の卓(つく)のほとりはいと静にて、熾熱燈(しねつとう)の光の晴れがましきも徒(いたづら)なり。…』という書き出しで始まる森鷗外(そうがい)の小説『舞姫(まひめ)』。今回、広井護先生に、「『舞姫』冒頭の謎を読み解く」とのタイトルで特別授業をしていただきました。我々62回生は、中学1年から高校3年までの6年間、広井先生に主任をしていただき、現代国語を教えていただきました。

広井先生は、文章の読み方には、表層読みと深層読みがあり、字面だけをたどっていくのではなく、文章を深く読むことによって作者の思いにより近づくということを『舞姫』の冒頭を題材に非常に分かりやすく授業をしていただきました。学生時代、私は現代国語は苦手科目でしたが、今回の授業では、学生時代とは異なった印象、感動を覚えました。



土佐高サッカー部 全国大会への軌跡 (DVD上映)

解説：澁谷勉サッカー部顧問 (58回生)



川崎卓巳 (58回生)

「高知では相手を抜き離しても追いつかれることはなかった。」8月のホームカミングデーで、「土佐高サッカー部全国大会への軌跡」を澁谷勉監督(58回生)が詳しく映像の解説をされました。昨年は県優勝、インターハイ出場、リーグ戦優勝。更に正月の全国選手権出場と3冠を獲得した素晴らしいチームでした。残念ながら初戦敗退でしたが、監督の視点ではまだ上に進める可能性ありとのこと。中学も県下トップクラスが数年間続いており、土佐高サッカー部の全国出場は、近い将来再び期待できそうです。澁谷先生の指導力に敬意を表すると共に、選手の皆様のご活躍をお祈り致します。



フォークダンス大会

～昭和44年に終わった運動会の風物詩・
フォークダンス復活～



フォークダンスの怪

中岡竜太郎 (82回生)

大変失礼ではあるが、あえてこう表現させていただく。自分の母親よりも年上のマダムと手を取り合っ…かくして私の人生史にフォークダンスの文字が刻まれた。女性の目すらまともに見ることのできない20代前半のうぶな男子たちをマダムがリードする。我々男性陣はまさにされるがままの様相。しかし、ダンスパーティーも佳境を迎えてきたそのとき、ふと気がつけば女性陣の笑顔は10代にまで若返っていた。これは怪談の類ではない。







2012ホームカミングデー実行委員会「2の会」

実行委員長 荻田 正夫 (42回生)

今年のホームカミングデーは、下桁「2のつく回生」がお世話させて戴くということでした。心優しき同級生のおかげでいつの間にか実行委員にされ、年長ということのみで実行委員長を仰せつかりました。今までほとんど学校の行事に参加してないせいで、何をどうしてよいのやら…。パソコンメールで、2の会のメンバーが準備に調整に頑張ってくださいのを眺めながら「うん、やってる、やってる」てな具合でした。こんな委員長でも、2のつく各回生の委員の皆さんがしっかりしていると素敵な仕上がりになるものです。

当日は、新しい校舎にも初めて入らせていただき、その立派さに、かつての木造校舎「筆山の麓鏡川の畔校舎ギューギーとして」と揶揄していた私たちの時代を思うと、隔世の感がありました。あちこちで久しぶりの旧交を温める輪を目にすると、準備にほんの多少なり関わった者として心温かく感じるものでした。

お忙しい中講師を務めて下さった同窓生の方々、ご無理を聞いて下さった学校の先生・職員の皆様ありがとうございました。2の会の委員の皆様、本当にお疲れ様でした。来年は3の会、頑張ってください。

来年のホームカミングデー 2013年8月17日(土) 開催予定

会やってみ～あ

土佐高等学校先輩・後輩交流会

北川 力(70回生)



今年で五回目となる高知県在住、若手同窓生が主体となつて行っている「土佐高等

学校先輩・後輩交流会」を、去る七月三十一日に約七十名の同窓生の皆様にご参加いただき、無事開催することが出来ました。今年には山本芳夫校長、西山彰一幹事長をはじめ、母校の教職員の皆様、同窓会役員の皆様のご参加とご協力を賜り、高知県在住の同窓生が親睦を図る機会として、少しずつ確かなものになってきているのではないかと感じられました。

当初は、わずか数名の集まりでしたが、自分たちの知っている先輩、後輩の皆様、手の届く範囲の仲間たちに声掛けを続けることで参加者を集め、二年目には十名、三年目には二十名、四年目の昨年には四十名を超えるまでになりました。そのころから、一部の同窓会役員の方々の個人的な援助もあり、少しずつ「会」としての形も作られてくるようになってきました。

そして今年はこの「土佐高等学校先輩・後輩交流会」に、高知県在住の同窓生に対して、その年に開かれるホームカミングデーへの参加や周知をお願いする、「ホームカミングデー振興」という役割を持たせる試みも始めてみました。

まだまだ多くの高知県在住の同窓生の皆様にお声掛けが出来ているわ

けではありません。今後何かのかたちでお誘い申し上げた際には、何卒ご協力お願い申し上げます。この活動が一日でも早く、皆様のためになる活動であると認識していただけるそのような日が来ることを願っております。

私立学校の特色、存在意義のひとつは先輩から後輩へと受け継がれながら、豊かな同窓会を育てていくことではないでしょうか。折に触れて同窓生たちが親睦を深め、お互いの人生を応援し合う機会をつくり、また在校生や母校の発展に寄与するための援助を生み出す機会をつくりだせるのも、豊かな同窓会あればこそではないでしょうか。



関東支部「学生・若手社会人交流会」

澤田千紘(78回生)



皆様こんにちは。78回生の澤田です。今回、関東支部「学生・若手社会人交流会」についてご紹介す

る機会を頂きありがとうございます。関東支部から始まったこの会が、他支部にもその輪を広げているのとこと、大変うれしく思っております。関東支部「学生・若手社会人交流会」は二〇〇七年、「学生や若手社会人がもっと気軽に参加でき、持続可能な会にする」をモットーに、70回生の小松さんを中心としたメンバー数人と発足した会です。

「安さで気軽さ」から場所を東大駒場生協をお借りし、二〇〇八年からは、「世界で活躍する先輩からメッセー지를いただき、土佐校のネットワークを広げる場にする」べく、尾崎正直高知県知事(61回生)、森郁夫元富士重工会長(41回生)、秦郷次郎元ルイ・ヴィトンジャパン社長(31回生)と、各方面で活躍されていらつしやる先輩方から、学生時代の過ごし方や若手社会人への激励のメッセー지를いただく会へと成長してまいりました。

この会が毎年成長を続けてこれたのも、例年どなたにゲストスピーカーをお願いするか、世話役一同で悩まなくてはならないほど、ご活躍されている先輩方が数多くいらつしやる土佐校ならではの、いつも感謝しております。

そして、この会の趣旨に賛同頂き、毎年増加する参加者の皆様に大変感謝しております。昨年度はついに約100人の方にお集まり頂きました！この会を通じて、関東支部本部の同窓会に参加するようになったという方や個々にタテのつながりができたという方もおり、世話役として年々盛況になる会を嬉しく思っております。本年は、二月一五日(土)、ゲストスピーカーに39回生の吉村尚憲水(株)会長をお迎えして実施する予定です。テーマは「知・勇・仁」と「三つの目」、グローバル競争の中でです。他支部の皆様の日々飛

び入り参加も大歓迎ですので、奮ってご参加ください。高知を離れているからこそ分かる高知のよさ・土佐校の素晴らしさを、今後も関東支部より発信できればと思います。



あちこちでこんにちは

(7)

土佐高校OB・OG関西若手交流会



藤原由親 (65 回生)

関西支部では今年
の6月から(ほぼ?)
毎月、関西在住の若
手OB・OGにお声掛
けし、「土佐高校OB・OG関西若
手交流会」を開催しています。この
10月で4回目になりました。

大阪でありながら、その場だけは
土佐弁が飛び交う「高知ワールド」。
毎回「酔たんぼ」になって楽しく盛
り上がっています。56回生の原田和
人先輩と2人でスタートした会です
が、現在ではメンバーが40名ほどに
なりました。私に特別な人脈がある
わけではありません。土佐高校OB
・OG限定の集まりということだ
けで、自然に輪が広がっています。
参加いただいた方が、同期のお友達
を連れてきて下さることも多く、本
当に土佐高校の伝統の深さを感じま
す。

一昨年、初めて関西支部の総会に
出席させていただいたことがこの会
を始めのきっかけになりました。総
会に出席する同世代のOB・OGが
少なく、何となく寂しさを感じたの
です。「せつかく近所におるかもし
れんのに、もったいないなあ。卒業
生同士、会って飲んだら楽しいの
に。」そんな軽い気持ちからこの会
が始まりました。

ですから、この会の趣旨は「せつ
かく関西におるがやったら、まあ飲
もつや。土佐弁でしゃべろつや。」
という「ゆる〜い」ものです。いつ



も開催していれば、どこかのタイミ
ングで参加してくれることもあるだ
ろうと思つて、とりあえず「毎月」
開催しています。特に気負うことも
なく、最悪、参加者がいなければ、
おっさん二人(すいません!)、原
田先輩とのサシ飲みになるだけだ
と思つてやっています(笑)。

この会に参加していただいた方も
いつか就職や転勤で関西を離れるこ
とになるかもしれません。でも、い
つかどこかで再会した時に「あの時
の関西若手会で…」というようなご
縁をつなげることができたら本当に
うれしく思います。そんな希望を持
ちながら、今後も「ゆる〜く」「毎
月」開催していきます。関西以外の
方も、こちらにお立ち寄りの際はぜ
ひご参加くださいな。

「ほいたら、待ちゆうつきねえ!」

関東支部「はちきん会」



佐々木泰子 (33 回生)

発端は一九九六年
の関東支部総会の後
でした。男性の多い
土佐高の同窓会に

「何とか、もつと女性
を」の願いから、「ひとつはちきん
会を作つたらどうかね」と、当時支
部長をされたいた宮地貫一(先輩(21
回生)が発案されました。かくして
「はちきん会」は、私達女性六人か
ら発足することになりました。しか
し、こうした会合で常に頭を悩ます
のは、会費や場所の問題。それを良
くご存知の宮地先輩は、寛大にも自
ら最初の二回は全面的に援助をし
て下さり、男性同窓生方にも援助を呼
びかけて下さいました。

感謝なことに、回を重ねることに
理解ある優しくサポートをして下さ
る男性同窓生が登場されました。私
達はこうしたサポーターの方に、「
ナイト」(騎士)の称号を贈呈致し
ました。こうした「ナイト」を交え、
会場では女性だけに、仕事、恋愛、
結婚、日常生活、子育て、親介護等
話題が盛り上がり、土佐弁も交えて
、親睦の輪が広がってゆきました。
会場も、普段はあまり縁のない素敵
な所で開催して参りました。(丸の内
三菱クラブ、八芳園、赤坂シヨール
パブ、日本工業倶楽部、開東閣、リッ
ツカールトンホテル、横浜ロイヤル
パークホテル、他)

今年(九月二五日、土曜日の昼
霞ヶ関プレスセンタービル内の豪華
なレストラン「アラスカ」で開催致
しました。この度は、検察がかけた

濡れ衣を終始一貫、あきらめずにが
んばり、無罪を勝ち取つた村木厚子
さん(49回生・厚生労働省社会・援
護局長)を講師に、貴重なお話も伺
うことができました。今回は一五回
目の会合で、出席者も一〇〇人を越
え、初めて参加された方々からも
「こんなに楽しい会だったら、もつ
と早く参加すればよかった」との感
想を頂き、裏方を務めてきた私共を
喜ばせてくれました。

《はちきん会は私にとつて大切な
出会いの場です》と若い方も云うよ
うに、「はちきん会」は、どなたで
も大歓迎です。これから、先輩後
輩、助け合い、分かち合いながら楽
しく有意義な時を過ごして参ります
ので、どうぞご参加下さい。お待ち
しております。





47回生

42年前にタイムスリップ ～本郷太栄館で修学旅行の夜を懐かしむ会～

岡田 容典 (47回生)



「散歩コースにある旅館は修学旅行で泊まったとこじゃなからうか？」森裕司の一言から始まった今回のイベント。修学旅行のしおりに記載された旅館と見事に一致、現在も営業されていることが分かってからの行動は早かった。浜京を実行委員長に、47関東の有志が秘密裏に計画を練る。お土産は修学旅行のしおりと決定、大阪在住の田代夫妻の持っていたコピーを元に再現した。また、旅行の様子が掲載された向陽新聞の縮小版と、当時の太栄館のしおりも準備されていた。これには光正の尽力に負うところが大きい。令士、浜京の力作、当日のパンフレットには、みながら送ってもらった修学旅行の思い出が満載。

さて、当日のこと。一番乗りは、はるばる高知から参加の大谷。岡田、小栗、児嶋、成人と続き、部屋で一服、否ビルで乾杯。女子や幹事が到着し、受付が始まった中、卒業以来こうした集まりに初めて参加した陰山の登場に女子から歓声が上がった。ロビーの一角では早くもビール片手に旧交を温める姿も見られた。

玄関前で集合写真を撮影後、宴はスタートした。司会は令士と節

ちゃん。出欠点呼から始まって、実行委員長挨拶、乾杯、ひと時の歓談の後、全員による一分間スピーチ。一分を超えるとは非情にも「チーン」が鳴る。粘る者には容赦なく「チーン」「チーン」「節ちゃんってそんなに非情やったかえ？」に一同大笑い。参加者名簿順にスピーチが行われたことが後で功を奏した。一人ひとりの顔写真と名前が見事に一致したことで、47ホームページのフォトギャラリー、スライドショー(DVD)、ビデオ動画が感動ものとなった。

別室に移った二次会はエンドレス。出席者が各地から持ち込んだ酒と肴の数々に舌鼓を打ちながら、日付が変わって二時三時なんのその、夜が白々と明けるころまで続いた。それでも七時には朝食に集まり、昨夜の話に再び盛り上がったことは言うまでもない。恐るべし遺暦前！

童心に返ったわけではない。昔話だけに花が咲いたわけでもない。今を語り、そう遠くない将来を語る。まだまだ老け込むには早い。もう一花とは言わないが、もう少し頑張ってみようか。そんな気持ちになれた。たった一夜のタイムスリップだった。

(文中敬称略)



学校近況ご報告



学校長
山本 芳夫
(40 回生)

同窓生の皆様におかれては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。又、平素は母校に対し格別のご厚情とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

一、新校舎建築募金へのご協力を深謝

お陰様で募金の最終結果は目標を大幅に上回りました。ご寄付いただいた皆様から御礼を申し上げます。中でも圧倒的ウエイトを占めた同窓生各位の絶大なご支援に改めて深謝致します。

さて、この様に募金運動が一段落したところで恐縮ではありますが、次の取り組みとして、新しい寄付制度の創設を検討しております。その主旨は、土佐校が誇るべき校風である「文武両道」の更なる発展を担保する。具体的には、教育施設・設備や教育研究制度など、或いはクラブ活動やその関連する遠征費用などへの支援などの充実に資する。その為の財政基盤強化策の構築にあります。現在具体的な制度設計を進めておりますが、内容が固まりましたら改めてご報告をさせていただきます。その節は、どうかご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

二、「より高いレベルでの文武両道」を目指して

今年度の大学入試状況を総括しますと、新卒生(87 回生)は、東大合格者7名の全員を占めるなど、いわゆる難関大学において堅調な成績を収めました。また、過卒生も、国公立の医学部医学科に24名合格という素

晴しい成果を上げました。この結果、新卒生と合わせた合格者は33名となりましたが、この実績は某週刊誌の調査によれば、全国高校中27位にランクされることとあります。(平成24年度入試総括)の頁をご参照下さい。

一方、運動部、文化部もこれまでに様々な大会で好成績を残しております。中でも、高校県体でのハンドボールの男女ダブル優勝や剣道男子の七年ぶりの優勝、中学県体での水泳男子やハンドボール男子の優勝などが話題となりました。また、四国大会、全国大会、国体などへも多くの部、個人が出場を果たしました。(文化部の活躍も含め、「文武両道」の頁をご覧ください。)そして、これからも、「より高いレベルでの文武両道の達成」への道を直向きに歩んで参りたいと存じます。

そんな時、嬉しいニュースが入ってまいりました。高校野球部が選抜大会県予選で三位となり、二年ぶり15回目の四国大会への出場を決めました。

三、学校行事について

秋分の日、薄曇りの絶好のコンディションの下で高三生が創意を凝らし制作した櫓が立ち並び、今や風物詩となった恒例の「運動会」が多くの来場者を迎え盛大に行われました。

今後の学校行事としては、十月の全校防災訓練、十一月の高一生修学旅行(東京・京都)、年明けの二月の向陽祭(隔年開催)や中二生のスキー研修(新潟越後湯沢)などが予定されておりあります。

その一方、88回生となる高三生は、いよいよ大学受験に向け最終段階に入っております。過卒生とともに全員の志望が叶うことを心から願うところであります。さて、これからは秋が深まってまいります。同窓生の皆様の益々のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げます。ご報告と致します。(平成二十四年十月十五日 記)

振興会活動報告

会長 高木直之(57回生)

三月の評議員会にて新役員が決定し運営を行っております。任期の二年間宜しくお願い致します。今年度予算のトピックスとして、安全対策費という予算科目を追加しました。増える自転車事故への保障として、学校が生徒全員加入の自転車総合保険制度を導入することになりましたので、振興会として約半額の協力をさせていただきます。また、教職員・生徒用一泊分の非常食など、防災関連備品の充実に引き続き力点を置いています。六月の進学講演会では立命館大学副総長の本郷さんに内容の濃いご講演を頂きました。運動会の風景を写したうちはホームカミングデーや運動会当日に配られ大変好評を頂いております。振興会だより24号は今年度卒業した87回生にも送付致しました。一昨年から始まった「高知県私学振興大会」には多くの保護者の方々の参加を頂きました。保護者の声を通じて、私学への経常費補助拡充を知事に要望しました。

これからも振興会は連絡協議会や各種行事への参加を通じて学校との情報交換を行い、同窓会との連携をとりながら時代に即した振興会運営に取り組んでまいります。皆様のご理解とご協力を今後ともよろしくお願い申し上げます。

会長	高木 直之	理事	川村 進一
副会長(進学)	宮地 貴嗣	理事	上久保由佳
副会長(広報)	吉澤文治郎	理事	藤本 隆晴
副会長(総務)	島崎 留瑞	理事	近澤 博子
監事	西本 和男	理事	坂田 和子
監事	高橋 千佳		

●合格の状況●

国立大学	現	過	計	進学
北海道大	1		1	1
筑波大	4	2	6	6
埼玉大		2	2	1
東京大	7		7	7
東京医科歯科大		1	1	
東京学芸大	1		1	
東京農工大	1		1	
東京工業大		1	1	1
電気通信大		1	1	1
一橋大	1		1	1
横浜国立大	4	2	6	5
信州大	1		1	1
三重大		1	1	1
滋賀大		1	1	1
京都市大	3	5	8	8
大阪大	5	4	9	9
神戸大	7	1	8	7
鳥取大		3	3	3
島根大	1		1	1
岡山大	7	6	13	11
広島大	4		4	4
山口大	1		1	1
徳島大	2	4	6	6
香川大	4	2	6	6
愛媛大	2		2	1
高知大	14	8	22	20
九州大	3	2	5	5
九州工業大	1		1	1
鹿屋体育大	1		1	1
計	75	46	121	110
昨 年	88	53	141	128

公立大学	現	過	計	計
高崎経済大		1	1	1
首都大学東京	2		2	2
横浜市立大		1	1	1
大阪市立大		2	2	1
大阪府立大	2		2	2
神戸市外国語大	2		2	2
兵庫県立大	3	2	5	3
兵庫広島大	2		2	1
尾道大		1	1	
下関市立大		1	1	1
高知県立大	1	2	3	3
高知工科大	2	1	3	3
北九州市立大		1	1	1
計	14	12	26	21
昨 年	14	9	23	21

国立医学部医学科				33
----------	--	--	--	----

私立大学	現	過	計	進学
流通経済大		1	1	
国際医療福祉大	1	1	2	2
獨協大	1	1	2	
千葉工業大		2	2	
青山学院大	10	10	20	3
大妻女子大	2		2	1
学習院大			0	
北里大	4	1	5	3
杏林大	2		2	
慶應義塾大	11	8	19	8
工学院大	1		1	
国際基督教大	1		1	
駒澤大	1		1	1
芝浦工業大	2	1	3	
順天堂大	2		2	1
上智大	6	2	8	3
成蹊大	2	1	3	
成城大	2		2	1
専修大	1	1	2	
創価大	2		2	
大東文化大	1		1	
玉川大		1	1	
多摩美術大	1		1	1
中央大	3	7	10	4
帝京大	4	4	8	3
東海大		1	1	1
東京経済大		1	1	1
東京電機大	1	1	2	2
東京理科大	3	6	9	3
東洋大		2	2	
日本大	8	6	14	3
法政大	7	7	14	3
武蔵野大	4		4	3
明治大	22	17	39	6
明治学院大	2	2	4	
立教大	13	3	16	5
早稲田大	30	10	40	15
東京工科大		2	2	
聖マリアンナ医科大		1	1	
愛知大		2	2	
愛知医科大		2	2	
愛知学院大		1	1	1
金城学院大	1		1	
中京大	7	2	9	1
中部大		1	1	1
名古屋女子大	1		1	1
南山大	1		1	1
びわこ成蹊スポーツ大		1	1	1

私立大学	現	過	計	進学
京都外国語大		1	1	
京都産業大	5	1	6	
京都女子大	4	1	5	1
京都精華大	1		1	1
京都薬科大	3	1	4	2
同志社大	15	19	34	8
同志社女子大	6	1	7	2
花園大	1		1	
立命館大	40	31	71	11
龍谷大	14	3	17	4
明治国際医療大		1	1	1
京都造形芸術大	1		1	1
京都文教大	1		1	1
大阪学院大	2		2	
大阪経済大	4		4	
大阪経済法科大	1		1	
大阪工業大	2		2	1
大阪電通大	1		1	
大阪薬科大	2	1	3	
大阪大谷大	1		1	
関西大	9	14	23	2
関西外国語大	2		2	
近畿大	9	8	17	6
帝塚山学院大	1		1	
関西学院大	20	11	31	8
甲南大	1	1	2	1
神戸学院大	9	1	10	
神戸薬科大	3	1	4	3
兵庫医科大		1	1	
関西国際大	1		1	
岡山理科大	2	1	3	
川崎医科大		1	1	
就実大		1	1	
川崎国際医療福祉大	1		1	
広島工業大		1	1	
福山大		1	1	
安田女子大		1	1	
徳島文理大	5	2	7	3
四国学院大		1	1	
松山大	5	2	7	2
福岡大	1		1	
福岡歯科大	1		1	
立命館アジア太平洋大		1	1	1
計	334	218	552	138
昨 年	299	191	490	128

短大	1	1	2	1
留学	1		1	1
専門学校	1		1	1
防衛大	1		1	1
防衛医科大		1	1	

平成24年度入試総括

進路部長 岡松 宏明 (51回生)



今年の入試結果では東大での健闘をまず上げます。合格者数が大きく向上したわけではありませんが、今年、地方高校からの東大合格者が激減した中、文一の3名を含む合格者7名は全員現役。その中に後期日程合格1名を含まれています。東大の後期試験は30倍の募集で定員は100名、志願倍率は100倍

を超え、俗に「足切り」と呼ばれる2段階選抜ラインで軽くセンター試験90%を越えます。これを突破した現役生が出たことは喜ばしい事です。地元安定志向が強まってきた最近の全国受験生の動きですが、本校はそれに真っ向から逆らう強気の受験生が主流、結果として北から南まで全国の大学に合格者を送りだす本校の特徴は今年も維持されています。反面、慎重出願をした県外受験生流入の影響か、難化した愛媛大・高知大で合格者を伸ばせなかつたのが残念です。センター試験後2次試験までの学習指導の強化の必要性を感じました。

私立大は早稲田、明治で各30名、関同立合計で150名を超える合格者、現役生に限っても私大合計で334名、昨年より35人増々、おおむねよい結果でした。国立大医学部は近年では最多の33名合格、某週刊誌調査の国立大医学部合格者数で全国27位でした。ランキングはこれで3年連続、順位も少しずつ上がっており安定した成績です。とりわけ86回生の活躍がめざましく、東京医歯大、大阪大、九州大、岡山大、横浜市大、慶応大と医学部の中でも最難関の大学に多く合格しました。現役生も高知大6名を含み、岡山大、広島大、徳島大に合格、日頃の努力が実つた結果となりました。医学部志望者は例年50名前後ですが、今年は私大も含め医学部進学者は36名、本校は医学部進学を希望を叶えることのできる確率が極めて高い学校であると言えるでしょう。もちろんそれ相応の努力が必須なことは言うまでもありません。

今年の入試結果を踏まえ、88回生一人一人の希望が叶うよう、さらに頑張っていきたいと考えています。

全国大会に出場した運動部

高校インターハイ

- 【団体】ハンドボール部（男子）、ハンドボール部（女子）、登山部、剣道部
- 【個人】陸上部：新納愛・1600mリレー（女子）
水泳部：佐々木麻い
バドミントン部：高橋京平・柿本恭平・有田和佳奈
自転車部：中田祐輔

中学校大会

- 【個人】卓球部：竹崎一皓
空手道部：仙頭 陸

高校県体

- 【団体】優勝 ハンドボール（男子，5年連続26回目）
ハンドボール（女子，18年ぶり2回目）
登山（4年連続16回目）
剣道（男子，7年ぶり4回目）
水泳（男子，2年連続5回目）
2位 バドミントン（男子）
3位 ソフトボール，サッカー，自転車
- 【個人】優勝 陸上：女子100m（新納），走り幅跳び（松岡）
水泳：男子200m個人メドレー（塩見）
女子50m自（佐々木），100m背（佐々木）
バドミントン：男子ダブルス（高橋・柿本）

高校四国大会

- 【個人】3位 登山，剣道

全国大会に出場した文化部

- 【棋道部】第48回全国高校将棋選手権大会（西田・山本・堀川）
第36回全国高校総合文化祭囲碁部門（川村）
- 【放送部】第36回全国高校総合文化祭放送部門：アナウンス部門（西村）
第59回NHK杯全国高校放送コンテスト：アナウンス部門（西村）
ラジオドキュメント部門（西村・中嶋・西岡・山崎・笠原・西峯・安光）
- 【写真部】第36回全国高校総合文化祭写真部門（小松）
- 【文芸部】第36回全国高校総合文化祭文芸部門：文芸部誌（藤岡）
詩（金）
短歌（片岡）
- 【演劇部】第36回全国高校総合文化祭演劇部門

中学高知市体

- 【団体】優勝 水泳（男子），卓球（男子），ハンドボール（男子）
2位 サッカー，バドミントン（男子），卓球（女子）
ハンドボール（女子）
ベスト4 テニス（男子），テニス（女子）
- 【個人】優勝 陸上：男子100m1年（武政），走り幅跳び1年（武政）
水泳：男子200m背（諏訪），200m平（梶原）
100mバタフライ（森田）
200mバタフライ（森田）
200m個人メドレー（梶原）
400m個人メドレー（松田）
400mリレー（森田・徳弘・松田・梶原）
400mメドレーリレー（高橋・梶原・森田・徳弘）

中学県体

- 【団体】優勝 水泳（男子，5年連続11回目）
ハンドボール（男子，3年連続18回目）
2位 バドミントン（男子），ハンドボール（女子）
テニス（男子），テニス（女子）
3位 卓球（男子）
- 【個人】優勝 水泳：男子100m背（高橋），200m背（高橋）
200m平（梶原），200mバタフライ（森田）
200m個人メドレー（梶原）
400m個人メドレー（松田）
400mリレー（徳弘・松田・森田・梶原）
400mメドレーリレー（高橋・梶原・森田・徳弘）
空手道：男子形（仙頭）

がんばる現役生！

文武
両道





本部活動報告

幹事長 西山彰一（48回生）

二〇一一年度は各支部との交流、八月の同窓会総会、ホームカミングデーなどを開催いたしました。本年も各支部総会に本部役員をお招きいただき誠に有難うございました。各支部の世代を超えた様々な取り組みによって、同窓会の活動の広がりと共に豊かな文化を育んできております。本年も数々の事業の企画・運営の折には、教職員の皆様、振興会、そして同窓生の連携、チームワークにより円滑に実施できました。この場をお借りして、心から御礼申し上げます。

本年度のホームカミングデーは、卒業回生「2」の会の皆様を中心に企画をしていただきました。10歳ずつ違いの先輩・後輩の母校との想い出や卒業生としての母校への貢献など、貴重なお話を聞かせていただきました。改めて母校の素晴らしさに触れると共に、世代を超えた文化の継承がなされている事に感動いたしました。

最近同窓会総会の出欠や住所変更などホームページなどの活用が活発になってきておりますが、情報通信技術の進歩の反面、システムへの不

法侵入などの問題が顕在化しております。このような問題に対して安全で信頼性の高い情報管理に向けて鋭意改善を続けております。

二〇一〇年の同窓会名簿が発行されて以来、次回の二〇一五年の名簿編纂に向けて検討がなされております。基本的には従来形式を踏襲して参りますが、より使いやすい名簿にするために、是非、皆様のご意見を各支部で取りまとめたいだけだから幸いと存じます。

二〇一一年度の終わりには「土佐高校野球部誌―全力疾走の軌跡―」が発刊されました。80歳を迎えた父と一緒に歴代の名選手の試合の場面を思い出しながら時が経つのを忘れて記念誌を読ませていただいております。二〇一三年二月二十四日、東京マラソンと同日、「わざわざ高知で走ろう！高知龍馬マラソン」をキャッチフレーズに「高知龍馬マラソン二〇一三」が開催されます。同窓生もたくさんこの事業の運営へのかかわりそして選手としての参加が予定されていると聞いております。是非この時期に、一足早い春を高知でお楽しみいただけたら幸いです。

本部二〇一二年事業計画

1. 二〇一二年総会の開催
2. 母校創立100周年に向けての協議、準備
3. 同窓会活動について各支部と協議・交流・HPの活用
4. 二〇一五年名簿発行に向けての準備
5. 筆山ホールにて講演会開催
6. 名簿管理システムの運用
7. 同窓会財務強化
8. その他、母校の発展に資する事業

土佐中・高等学校同窓会役員

会長	岡内 紀雄 (34回生)
副会長	横田 整二 (40回生)
副会長	川崎 康正 (42回生)
副会長	北村恵美子 (47回生)
副会長	徳永 俊一 (49回生)
副会長	市川 直介 (53回生)
幹事長	西山 彰一 (48回生)
副幹事長	岡田 容典 (47回生)
副幹事長	田所 智子 (49回生)
副幹事長	宮地 貴嗣 (61回生)
副幹事長	矢野 公士 (62回生)
会計	千頭 裕 (58回生)
会計監査	森木 将雄 (32回生)
会計監査	田中 章夫 (40回生)

母校／同窓会本部／各支部

土佐中学・高等学校 事務 千頭裕 〒780-8014 高知市塩屋崎町1-1-10
 (TEL) 088-833-4394 (FAX) 088-833-7373 (E-mail) tosa@tosa.ed.jp (HP) http://www.tosa.ed.jp/index.html

土佐中学・高等学校同窓会本部 会計幹事 千頭裕 〒780-8014 高知市塩屋崎町1-1-10
 (TEL) 088-833-4394 (FAX) 088-833-7373 (E-mail) tosa@tosa.ed.jp (HP) http://www.tosaobog.com/

同窓会北海道支部 事務局長 山本隆昭 〒001-0018 札幌市北区北18条西6丁目 ARTE 88-305
 (TEL) 011-756-2817 (FAX) 011-756-2817 (E-mail) yamat@den.hokudai.ac.jp

同窓会関東支部 事務局長 二宮潔 〒100-8222 東京都千代田区丸の内2-6-1 丸の内パークビルディング森・濱田・松本法律事務所 弁護士市川直介気付
 (TEL) 03-5223-7719 (FAX) 03-5223-7619 (E-mail) naosuke.ichikawa@mhmjapan.com (HP) http://www.tosako-kanto.org/ (E-mail) kininomiya@ykh.chiyoda.co.jp / ninomiya@iris.ocn.ne.jp

同窓会東海支部 事務局長 神宮美恵子 〒468-0075 名古屋市天白区御幸山1201 御幸山パークマンション B-301
 (TEL) 052-837-5834 (FAX) ナシ (E-mail) jingu-m@crux.ocn.ne.jp (HP) http://tosakotokai.web.infoseek.co.jp/

同窓会関西支部 事務局長 原田和人 〒662-0015 兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-67-205 原田方
 (TEL) 090-1073-7822 (FAX) ナシ (E-mail) harada73@hotmail.com

同窓会広島支部 事務局長(新) 大谷準一 〒734-0007 広島県広島市南区皆実町6-3-26-902
 (TEL) 082-253-5759 (FAX) 082-254-7523 (E-mail) spat56z9@vesta.ocn.ne.jp (HP) http://www.geocities.jp/hiroshimashibu/

同窓会香川支部 事務局長 武山正人 (担当=大石浩) 〒760-8573 高松市丸の内2番5号 四国電力(株)
 (TEL) 050-8801-2610 (FAX) ナシ (E-mail) ooishi11737@yonden.co.jp

関東支部

天造豊彦(52回生)

二〇一二年関東支部は六月二日に支部総会(東海大学校友会、九月一五日には「はちきん会」(日本プレスセンター)といずれも例年以上の盛会で終えることができました。私も十数年ぶりに東京に戻ってきたので参加でしたが、驚いたのは先輩諸氏が「たまうるか」お元気なこと！流石健康長寿県。

私も「百歳でも健康！元氣！現役」を人生のビジョンに掲げ、「一〇個のバランス」の実践・証明・波及に取り組み始め十数年になる。そして、その一環として、50歳を迎えたのを機に「100kmウルトラマラソン」にチャレンジしてきている。今年も一〇月二一日に四万十ウルトラに挑戦。目標11時間切りは達成できずも何とか完走。最後に直前に思った坐骨神経痛の痛みが爆発し途中棄権も脳裏を走ったが、そこは「たっすいはいかん！」。最後一〇km歩いてのゴールとなった。カミさんからも「歳なんだから無理しちゃいかんぜよ！」。反省至極。

しかし、今回のような「無茶」は猛省せねばならないが、「無理」はし続けていく必要があると思っている。真の健康長寿県



を20年・30年後に実現するには、今の20代、30代から体力造りに取り組むべきではないかと考える。65歳完走全定年制度も間近、70歳定年もありうる近未来。楽しく豊かな生活と人生を送れるためには、何といつても「体力」が基本。そのためにも若い時から「〇歳でもこれはやれているビジョン」と「無理の積み重ねの習慣化」を是非持つべきだ。そしてそれを実現していくには、常に「絶対的に積極的」な心と言動で日々臨んでいくことが肝要。それが必ず強健な肉体造りにつながり、ひいては楽しく・豊かな人生につながっていくと思う。今回の四万十も失敗でなく「今回はちくっと上手う、いかざつた」。もう一一月のフル年来年のサロマ湖・四万十に向けての思いを描いている。が、まずは目の筋肉痛と坐骨神経痛完治を旨指さねば。そう、やっぱり「無茶はいかんぜよ」。

東海支部

幹事長 村山文世(41回生)

同窓会本部の皆様こんにちは。今年も八月一八日の「二〇一二年ホームカミングデー」に東海支部からは、山崎幹事(44回生)が参加させていただきました。有難うございました。その後の報告会で、ますます充実して発展するホームカミングデーの様子を楽ししく聞きました。

東海地方の近況をおしらせたいと思います。日本のデフレ状態はなかなか脱却できず、経済の停滞は続いています。地産物づくりの土地柄ゆえ、自動車産業、航空機産業等、日々頑張っています。スポーツにおいて、中日ドラゴンズは高木監督以下一丸となって今シーズンを戦い、惜しくもセ・リーグの優勝は逃しましたが、クライマックスシリーズに向けて調整を始めています。楽しみです。これからウインタースポーツのシーズンに入ると、女子フィギュアスケートで、浅田、鈴木、村上らに続く新人の愛知娘が活躍する事と期待しています。

五月一九日にキャッスルプラザホテルで開催した東海支部総会には母校から40回生山本校長先生、同窓会本部から40回生横田副会長、48回生西山幹事長のご出席をいただきあり

がとうございました。校長先生からは、今春の進学状況など躍進する母校の報告があり、本部、各支部からご出席頂いた来賓の方々からも活発な活動など、近況報告を頂きました。また、総会の席上で東海支部より母校の茶道部に贈呈するお茶碗(38回生の陶芸家、井上健郎さんと40回生の近添雅行さんの作)が披露され、その見事な出来栄に一同感心しきりでした。茶道部の日々の練習に活用していただければ幸いです。

二氏の作品



左・近添雅行氏(40回生)
右・陶芸家、井上健郎氏(38回生)

先日、春の高校野球センバツ大会の中国・四国地区の選考委員に40回生寺尾先輩が委嘱された記事を見ました。新向陽グラウンドで育った球児が活躍されて、甲子園のセンターポールに上がる校旗を眺めて向陽の空を歌える日が来ることを夢見ております。最後に同窓会本部の皆様のご健康と益々のご発展をお祈りして東海支部便りとさせていただきます。

関西支部

幹事 岡田晋典（76回生）

初めまして、76回生の岡田と申します。この度、ご縁ありまして関西支部の幹事見習いとなりました。私が卒業したのは二〇〇一年春のこと。20世紀最後の櫓を建築し、21世紀最初の卒業式で送られたという世紀末たぎの学年です。そんな私も三〇歳ということは、今の高校三年生は干支一回り下という衝撃の事実！まだまだ若手OBのつもりではあります。最近では酒を飲んだ後にラーメンを食べたくなる病や、ビールを飲んだら「ああ〜」と喉が鳴る症候群がでてきました。妻に白髪を見つけれられるなど、名実ともにおっさん街道・大人の階段を上っているようです。

さて、関西支部では毎年四月に関西支部総会を開催しております。今回はそのご報告をさせていただきます。

桜満開の四月八日、今回も関西在住同窓生に加え、本校より山本校長先生を始め来賓の方々をお迎えし、大阪市北区にあります阪急グランドビル一九階・関西文化サロンにて盛大に開催しました。前回までは一参加者に過ぎなかった私も今回からは

幹事見習いとして、カメラ片手にお手伝いさせて頂きました。

今回はいつもの支部総会と、事実上メインイベントの懇親会に加え、東日本大震災から約一年を経過し、今一度地震について知ろう・正しく怖がろうという狙いで、34回生で地震学者の尾池和夫元京都大学総長（写真に「地震を知って震災に備え



る」と題して講演頂きました。質疑コーナーではユーモアを交えながらも丁寧

に回答して頂き、いつか必ず来る大地震への理解を深めることができました。

そして懇親会では若手卒業生による一言挨拶。尾池先生を前に「在校時に講演を聞いたときはうつつらうつつら船を漕いでいた」との爆弾発言から、「五月に結婚します」というおめでたいニュースも飛び出すなど、終始笑いの絶えない賑やかな懇親会となりました。

さて来年は京都での開催を予定しております。例年以上に盛り上げて参りたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願いします。

広島支部

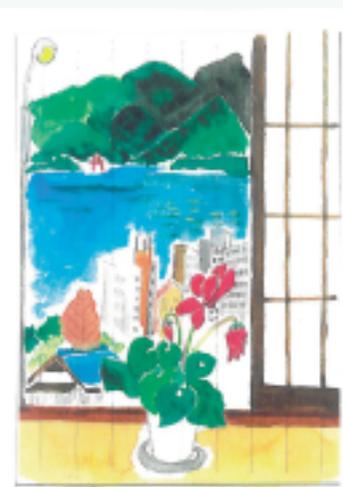
会計幹事 小島 康（37回生）

本部同窓会の皆様、お元気に夏を越されましたでしょうか。やっと秋になりました。広島は南国土佐より一〜二度気温が高い猛暑日が続き、この年齢には流石身に徹え、何事も秋になってからと先送りして、怠惰な生活をしておりましたところに、この原稿書きの依頼があり、否も応も無く気分がしゃんと致しました。

前置きが長くなりましたが、広島支部今年最初の活動は二月四日の東部（総会開催地の広島市に対して、福山市、尾道市、三原市）同窓会で

す。夕刻に役員が広島市より尾道に出向き、尾道在住の山本紳役員（55

S）最員の「村一番」に集いました。地鳥料理中心のお店です。出席者は八名で何時もながらの少人数でしたが、大いに食べ飲み語り、命辛辛リビアを脱出した中村哲氏（51N）のお話を固唾を呑んでお聞きするなど、思い出に残る会合となりました。これも支部会員相互の交流を深めるための、地道な努力の一つです。



自宅二階から宮島を望む

平成二十四年の広島支部総会は、十一月十七日（土）午後四時より「広島アンデルセン」で開催されます。今年の講師は佐竹真一氏（41H）。最近の情勢を踏まえて、シリアの觀光の話をしていただきます。九月下旬にご案内状を本部各支部に発送し、今はご出席していただく方々の顔ぶれを想像し、総会の日を心待ちしております。総会の翌日はご希望あれば、筆者が宮島の観光客が群れない絶景ポイントをご案内させていただきます。

ところで、NHKテレビ「にっぽん縦断こころ旅」で火野正平さんが四国入りしました。故郷高知の映像が流れる日を楽しみにしています。加齢と共に、望郷の念一入です。

(15)

香川支部

事務局長 武山正人（40回生）

同窓生の皆さま、こんにちは。香川支部事務局の武山です。香川支部の近況についてご報告いたします。

今年の香川支部の「七夕総会」は、文字どおり七月七日の七夕の日に開催し、JR高松駅前の「高松シンボルタワー」に四四名の同窓生が集いました。山本学長、宮地本部副幹事長をはじめ七名の皆さまを来賓としてお迎えし、眼下に広がる瀬戸内海の島々と往来する数多くの船舶を見ながら、香川支部会員との年に一度の再会を楽しみました。総会では、支部役員の改選ならびに会計報告が行われ、今年も支部役員の交替等もなく、私を含め現役員が全て留任することです。了承されました。総会後の懇親会では、土佐の冷酒を片手に、学生時代の昔話に花を咲かせ、いつもながらの盛大な宴席となりました。

さて、讃岐香川の近況ですが、俳優の要潤さんが昨年一〇月に「うどん県」への改名を宣言して以来、うどんツアーなるものができるなど、瀬戸内の島々で静かなブームになっている「ART SETOUCHI」を御存知ですか。

香川県は、直島、豊島など瀬戸内

の現代アート、猪熊弦一郎・東山魁夷など名だたる現代アーティストの美術館群、丹下健三・安藤忠雄建築の数々、金刀比羅宮書院の伝統芸術など文化スポットが数多く存在します。その瀬戸内海の島々を舞台に、現代アートの祭典である第二回瀬戸内国際芸術祭が来年三月に開催されます。瀬戸内国際芸術祭は、海を渡り、島々のアートを訪ね歩く、新しいスタイルの展覧会であり、国内外から現代アートスポットとして注目されるようになっていきます。来年度の芸術祭は、開催エリアを香川県中部の島々にまで広げ、更に瀬戸内の「四季」を知ってもらうため、春夏・秋の三シーズンに分けて開催されます。

アートの出会ったときの安らぎと感動を与える素敵な芸術祭。果たして、アートの超えられるのでしょうか？「ここから動くアート県、香川へ」ぜひ一度お越しください。



北海道支部

事務局長 山本隆昭（53回生）

北海道支部事務局の山本です。今年の夏は北海道でも暑い日が続きました。お盆頃には一時気温は落ち着いたのですが、その後は九月になっても三〇度を超える日があり、残暑に慣れていない北海道民にとっては、とてもつらい夏だったようです。夏の総会に出席してこちらに帰る時にも、涼しいところに帰れると思っていたのですが、札幌に帰ってみると高知とほとんど同じ気温でちよつと残念でした。さすがに十月の声を聞く気温は下がってきて、最低気温も一〇度を切るようになってきました。今年の支部総会は、十一月三日の開催予定ですが、それまでには一度ぐらい雪が降っていると思います。十月上旬現在、札幌市街地ではやっとな紅葉が始まったというような状態です。

さて北海道支部の近況についてお知らせいたします。北海道支部の活動としては例年通り支部総会の開催、各支部会報への支部便りの寄稿、総会出席です。昨年の支部総会には、来賓として同窓会から副会長の北村様、土佐高から教頭先生の三浦様、特活部長の岡田様、関東支部から幹事長の市川様、関西支部から幹事の

山下様、東海支部から幹事の山崎様にご出席頂きました。また関東支部からは西川様（80回）にもご出席頂き、北海道支部からの学生会員六名と合わせて総数一九名と久しぶりに大人数での開催となりました。遠くから出席下さいました皆様には改めてお礼申し上げます。例年ご連絡をいただいている各支部総会にも北海道支部から出席したいと思っておりますが、なかなか機会がない現状です。もし出席することがありましたら宜しくお願い致します。今年の総会では、来年が役員改選の年に当たりますので次期役員について諮りたいと思っております。

最後になりますが、最近北海道に転居されたあるいはこれから転居される卒業生の方をご存じの方がおりましたら、是非北海道支部に連絡する様お伝え下さい。今後北海道支部を宜しくお願致します。



2012年度支部総会にて（11.3）

